

## 西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業

文部科学省共通政策課題（文化的・学術的な資料等の保存等）の予算配分を受けて2016年度に始動した「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」を今年も継続して実施した。

社会科学古典資料センター（以下「センター」という）は所蔵資料の保存事業を通じて蓄積された西洋古典資料の保存と修復に関する知識・スキルを、これまでも講習会等によって他機関と積極的に共有してきた。本事業は、その実績を踏まえて、(1) 西洋古典資料の保存について中核的な役割を果たす人材を育成する実務研修事業、(2) 所蔵資料の保存修復事業、(3) 全国の大学等研究機関における西洋古典資料の所蔵・保存状況の実態調査を同時並行的に進めることで、国内における西洋古典資料の保存水準の全体的な底上げを目指すものである。

2018年は、一橋大学、神戸大学、広島大学の3機関から貴重書担当の図書館職員を研修生としてセンターに受け入れ、それぞれ8週間、3週間、5週間の実務研修を実施した。また、センター職員が特定の機関の図書館職員を対象に講義・実演を行う「機関研修（機関講習）」と、或る地方の複数の図書館の職員らを対象に講義・実習を行う「地域研修（地域講習）」を、東北大学において同大学附属図書館と共催した。さらに、西洋古典資料保存のためのネットワーク（略称「ほぞんネット」）第1回ミーティングおよび国際シンポジウムを一橋大学において開催した。また、フランクリン文庫を中心にセンター収蔵資料の保存修復作業を進めたほか、西洋古典資料の所蔵・保存状況に関するアンケートを作成した。

## 一橋大学社会科学古典資料センター創立40周年記念／

### 平成30年度文化的・学術的資料の保存国際シンポジウム「西洋貴重書を守る，活かす」

上記事業の一環として、国立大学図書館協会東京地区協会の後援およびHitotsubashi International Fellowship Program -Inbound- の助成を得て、12月7日（金）に一橋大学佐野書院において西洋古典資料の保存と活用に焦点を当てたシンポジウム「西洋貴重書を守る，活かす」を開催した。また関連企画として、一橋大学社会科学古典資料センター・保存修復工房の見学会と特別展示を同日に開催した。

プログラムは以下のとおり。

1. 一橋大学社会科学古典資料センター・保存修復工房見学会，特別展示
2. 国際シンポジウム「西洋貴重書を守る，活かす」

開会挨拶 山田敦（一橋大学副学長）

趣旨説明 大月康弘（一橋大学附属図書館長・社会科学古典資料センター長）

特別講演 「アダム・スミス文庫にわけ入って」

水田洋（日本学士院会員，名古屋大学名誉教授）

「水田文庫を特徴づける資料群」

中井えり子（元名古屋大学附属図書館）

基調講演 “Acquisition, Collaboration, Teaching:

The Role of the Beinecke Library in Driving Research”

Raymond Clemens (Yale 大学 Beinecke Rare Book & Manuscript Library)

パネルディスカッション「教育学習に古典資料を活かす」

馬場幸栄（一橋大学社会科学古典資料センター）

倉持 隆（慶應義塾大学三田メディアセンター）

田中麻巳（立正大学古書資料館）

閉会挨拶 屋敷二郎（一橋大学社会科学古典資料センター教授）

特別講演では、アダム・スミス研究で知られる名古屋大学名誉教授・水田洋氏の軌跡と、同氏が寄贈した「水田文庫」の整理にあたった元名古屋大学図書館職員・中井えり子氏の活動が紹介された。基調講演では、イエール大学バイネッキ図書館の写本・手稿類担当キュレーターであるレイモンド・クレメンズ博士が、最新の科学分析機器を用いた写本研究、日本の大学で開催した貴重書研究セミナー、大学院生たちと進めている写本テキストのマークアップ作業など、バイネッキ図書館が展開している研究・教育活動を解説した。

パネルディスカッションでは、貴重書を学生らの教育・学習に活かすためにはどのような工夫が必要かというテーマのもと、センター助教・馬場幸栄氏、慶應義塾大学三田メディアセンターのスペシャルコレクション担当・倉持隆氏、立正大学古書資料館職員・田中麻巳氏がそれぞれの大学における工夫を発表した。一橋大学からは、西洋書誌学・古文書学・博物館学等の授業で貴重書が用いられているほか、小中高校生や他機関司書らを対象とした講習会を開催しているとの発表があった。慶應義塾大学からは、「貴重書活動授業」を推進する宣伝活動を行ったところ文学部だけでなく経済学部や法学部による貴重書閲覧利用数も増加したとの発表があった。立正大学からは、同大学古書資料館が収蔵する和書貴重書の大半を開架にしているほか、サラリーマンや主婦をターゲットにした講習会も開催しているとの発表があった。

本シンポジウムには図書館司書・大学教職員・学生らが多数参加し、積極的な質疑応答と情報交換が行われた。

## 科学研究費助成金事業

2017年度から科学研究費助成金（基盤研究（C）「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」、平成29年度～31年度、課題番号：17K00465、研究代表者：江夏由樹）を獲得し、センターが所蔵するメンガー文庫、フランクリン文庫などに含まれる17～19世紀の西欧人が東南アジア・西アジア各地を旅行した際の記録である書物について、2018年も内容分析を実施した。

## 共同研究

国立民族博物館共同研究課題（「博物館における持続可能な資料管理および環境整備—保存科学の視点から」、平成29年度～32年度、研究代表者：園田直子）に馬場幸栄助教が参加し、環境に配慮した保存環境の構築や小規模施設でも実現可能な資料管理のあり方について、文化財を研究する各種機関の担当者らと国立民族学博物館において議論した。

## ひらめき☆ときめきサイエンス

2012年度から毎年行ってきた中・高校生向けセミナー「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」（日本学術振興会助成事業）を、馬場幸栄助教を実施代表者として7月16日（月祝）に実施した。「本を残す 本を伝える ～古典資料の保存・修復・活用～」と題した本セミナーでは、パピルスや羊皮紙の実物を用いた西洋書物史の講義のほか、羽根ペンを使った古書体の書き取り、中世写本の金箔装飾の実習、貴重書用の保存箱作

成、簡易製本、ページ修理の実習などを行った。100名以上の応募者のなかから抽選で選ばれた中学生4人・高校生8人と彼らの付添者3人のあわせて15人が、午前10時30分から午後4時の修了式まで熱心にそれらの講義・実習に参加した。

### 第19回西洋古典資料保存講習会

8月1日（水）から8月3日（金）までの3日間、全国の国公立大学図書館等から抽選で選ばれた8名の司書が以下の講義・実習に参加した。

1. 紙の材質と劣化、保存のための環境  
三浦功美子（伝世舎代表）
2. 災害から資料を守り、救うために  
眞野節雄（日本図書館協会資料保存委員会委員長）
3. 資料保存と製本構造、調査票の記入・活用、本のクリーニング、革装本の手入れ、書見台の製作、封筒フォルダーの製作、保護ジャケットの制作、ページ修理の基礎、見返し・表紙角の修理、保存製本、保存箱の制作  
岡本幸治（製本家・書籍修復家）
4. 社会科学古典資料センター見学  
馬場幸栄・田村彩子・渡辺美紀・門川智子（社会科学古典資料センター）

### 第38回西洋社会科学古典資料講習会

11月5日（月）から11月7日（水）までの3日間、全国の国公立大学図書館・専門図書館等から30名が参加し、以下の講義を受講した。

#### 書物史

1. 中世西洋写本とどう付き合うか  
高宮利行（慶應義塾大学名誉教授）
2. 西洋印刷本の世界  
武者小路信和（元大東文化大学文学部准教授）

#### 書誌学

1. 西洋貴重書の目録作成  
高野彰（元跡見学園女子大学文学部教授）
2. 目録作成実習  
高野彰（元跡見学園女子大学文学部教授）

#### 保存・修復

1. カビ処理の前に  
吉川博幸（株式会社明治クリックス）
2. 図書館におけるカビ予防と対策  
井上桃子（株式会社明治クリックス）
3. 西洋古典資料をもっと知るために

岡本幸治（製本家・書籍修復家）

展示論・生涯学習論

貴重書を学習に活かす工夫

馬場幸栄（一橋大学助教）

文献研究

貴重書の絵を読む 西洋図像学

馬場幸栄（一橋大学助教）

古典研究

『戦争と平和の法』はなぜ書かれたのか

山内進（一橋大学前学長・一橋大学名誉教授）

見学

1. 社会科学古典資料センターの見学（書庫，展示，貴重書保存修復工房）
2. 一橋大学附属図書館の見学（希望者のみ）

### センター利用規則の変更について

2018年6月27日より，学内者・学外者ともにセンター収蔵資料の閲覧には身分証の提示が必要となりました。学外の方は紹介状も併せてご持参ください。

また，2017年10月より運用されている貴重資料およびマイクロフィルム資料の閲覧予約制度について，以下のように規則を一部変更いたしました。

（旧）ご利用希望日の2営業日前までに予約

利用冊数は，原則として，同時に10冊まで

（新）ご利用希望日の7開館日前までに予約

資料は一度に10冊まで請求できますが，同時に閲覧できるのは3冊まで

閲覧予約はセンターのウェブサイトから行えます。

(<http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/information/index.html>)

なお，センター1階の開架資料については従来通り事前予約は必要ありません。ただし，センター入館の際に身分証の提示をお願いしています。また，工事等の都合で臨時休館となる場合がありますので，開館日時についてはセンターのウェブサイトに掲載されているカレンダーで事前にご確認ください。

### 日誌（2018年1月～12月）

1月9日 高麗大学ビジネススクールより見学者来訪

1月16日～2月23日，3月12日～30日

西洋古典資料保存実務研修生受入（一橋大学附属図書館）

1月26日 日本カルチャーデザイン研究所から見学者来訪

1月30日 首都大学東京より見学者来訪

- 2月8日 東京大学より見学者来訪
- 2月22日 日本大学より見学者来訪
- 2月28日 東京外国語大学より見学者来訪
- 3月26日 北海道武蔵女子短期大学より見学者来訪
- 3月29日 東京学芸大学附属中学校より見学者来訪
- 3月30日 Study Series No. 74：山内 進・屋敷 二郎・藤本 幸二『近世ドイツにおける刑事司法実務の発展』発行
- 3月30日 一橋大学社会科学古典資料センター年報 第38号発行
- 3月31日 山部俊文社会科学古典資料センター長が退任  
福島知己専門助手が退職
- 4月1日 大月康弘・経済学研究科教授が社会科学古典資料センター長に就任  
馬場幸栄助教がセンターに着任  
大学院新入生のために剽窃防止ガイダンスを実施
- 5月21日～6月1日, 6月11日～15日  
西洋古典資料保存実務研修生受入（神戸大学附属図書館）
- 6月1日 国公立大学図書館協力委員会『大学図書館研究』編集委員会より見学者来訪
- 6月22日 博物館資料保存論のための講義・展示・見学会
- 6月27日 第19回社会科学古典資料センター専門委員会  
議題：1 平成29年度決算報告及び平成30年度予算案について  
2 平成30年度事業計画について  
3 社会科学古典資料センター事前申込制について  
4 出版物の電子化と関係規則の改正について  
5 社会科学古典資料センター授業利用の促進について  
6 平成29年度事業報告について
- 7月12日 古典講読入門（歴史学）B, 西洋法制史のための講義・展示
- 7月16日 ひらめき☆ときめきサイエンス「本を残す 本を伝える ～古典資料の保存・修復・活用～」開催
- 7月24日 カリタス女子中学高等学校より見学者来訪
- 7月29日 一橋大学附属図書館オープンキャンパス特別展示のため資料貸出
- 8月1日～3日  
第19回西洋古典資料保存講習会開催
- 8月20日～9月21日  
西洋古典資料保存実務研修生受入（広島大学附属図書館）
- 9月11日 北京大学ビジネススクールより見学者来訪
- 10月16日 第35回国立大学法人等監事協議会東京支部会より見学者来訪
- 10月22日 ロンドン大学より見学者来訪
- 10月30日～11月1日  
第20回図書館総合展ポスターセッション出展
- 11月5日～7日  
第38回西洋社会科学古典資料講習会開催
- 11月16日 東北地区西洋古典資料保存講習会開催

11月21日～25日

一橋大学附属図書館企画展示のため資料貸出

12月4日 イェール大学より見学者来訪，バイネッキ図書館との交流会開催

12月5日 一橋大学国際交流セミナー「西洋初期刊本・写本研究のための入門ワークショップ」  
後援（主催：一橋大学法学研究科）

12月6日 西洋古典資料保存のためのネットワーク「ほぞんネット」第1回打合せ

12月7日 一橋大学社会科学古典資料センター創立40周年記念／平成30年度文化的・学術的  
資料の保存 国際シンポジウム「西洋貴重書を守る，活かす」開催

### 利用状況（2018年1月～12月）

開館日数 225日

来館者（閲覧者）数 113人

（学内） 73人

（学外） 40人

利用（閲覧）冊数 301冊

（学内） 180冊

（学外） 121冊

文献複写申込受理件数 22件

複写冊数 27冊

見学者数 229人

講習会・研修会参加者数 129人

レファレンス質問件数 14件

学内授業利用回数 8回

館内展示実施回数 13回

館外展示貸与冊数 10冊

学内他部局資料保存修理冊数 16冊